

## 国際化学肥料ニュース（2015年10月）

### 肥料業界の2015年10月動態

- \* インドが世界大手加里メーカーとの間に 2016 年度の加里肥料輸入年間契約に関する協議を開始した。インド通貨ルピー安の関係で、加里肥料輸入価格が大きく上昇し、国内加里肥料販売量と使用量に支障が来た。インドの IPL 社は 2016 年度の塩化加里 CFR 価格を 300 ドル/トンにすべきだと主張しているようである。

加里肥料需要の多い東南アジア諸国はインドの加里肥料年間契約協議に注目している。9 月末現在、東南アジア市場の塩化加里スポット価格が年初に比すすでに約 20 ドル/トン下落した。この 1 年間、マレーシア通貨リングgit対米ドルの為替レートが 35%、インドネシア通貨ルピア対米ドルの為替レートが 21%も低下したことで、塩化加里の需要が低迷している。

一方、ブラジル通貨レアル対米ドルの為替レートが 61%も低下したことを受け、2016 年ブラジルの大粒塩化加里 CFR 価格が 300 ドル/トンに下落することが確実視される。

- \* 9 月 27～29 日、アメリカ肥料研究所（TFI）がアメリカボストン市で開催した世界肥料会議に於いて、多くの会議参加者は窒素肥料とりん酸肥料の生産能力過剰で、化学肥料市況が悪化していることを心配している。特にこの 2 年間に中東、アメリカ、中国に尿素と尿素硝安溶液肥料（UAN）の新しい生産設備が完成されたことで、これから 4 年間またはそれ以上の期間に尿素と尿素硝安溶液肥料の過剰状態が続くだろう。6 月から尿素的国際市場価格がずっと低迷して、10 月上旬現在、中東、黒海、中国の FOB 価格が 250 ドル/トン前後に集中して、上半期に比べて 15～20 ドル/トンも値下げしている。

りん安については、生産過剰と言っても、純輸出国は中国、モロッコ、チュニジア、サウジアラビアに限られているため、生産調整が行いやすく、価格低迷がこの 1～2 年で解消するだろう。

加里肥料について、若干の生産過剰ではあるが、穀物の価格が上がれば、需要が回復する。但し、インド、ブラジル、東南アジアなど需要国の通貨安で、しばらくの間に加里肥料の価格が上がらないと見ている。

- \* インド MMTC 社が 10 月 9 日締め切りの尿素入札の結果が判明した。応札数 26 件、総量 293 万トン、ほかにオプション 40 万トンである。国際尿素市場の不況を反映して、最低入札価格は Dragon 社の CFR257.00 ドル/トンであり、CFR257.50 ドル/トン

までの低価格応札量が数 10 万トンある。10 月 26 日時点で、確定購入量が 46.5 万トン、その中に中国尿素 25.5 万トン、残りはイラン品と中東品である。

原油価格の下落で、ナフサを原料とするインド尿素工場の稼働率が上がったほか、イランやカタールなど中東地域産尿素的の価格も安くなっている。インドは国内尿素的の逼迫さが緩和され、輸入尿素的の入札に安値しか契約しない方針を貫く。そのため、今年は尿素的の入札回数が多くなったが、毎回の購買量が数 10 万トンに抑えていて、安値応札を誘導している。10 月 26 日、インドが今年 8 回目の尿素的入札を発表した。輸入担当業者は STC 社で、購入数量未定、10 月 30 日締切、12 月 5 日までに船積みするというさらに厳しい応札条件を提示した。

- \* インド MMTC 社の尿素的入札結果を受け、中国窒素肥料工業協会は 10 月 12 日に尿素的メーカーと輸出企業にインドへの尿素的輸出を拒否するように要請した文書を送付した。その理由は、インドの応札価格は中国尿素的の生産コストを下回るのて、国内メーカーの利益と国際貿易ルールを守るためである。インド MMTC 社が 10 月 9 日締め切りの尿素的入札には中国尿素的の応札量が 20.5~30.5 万トンと推定される。残りはイラン品と中東品である。
- \* 10 月 30 日に締切のインド STC 社の尿素的入札結果は、応札数量 64.1 万トン、最低応札価格 CFR 262.75 ドル/トンである。10 月に 2 回目の尿素的入札とインド輸入業者の態度に関連して、肥料貿易商たちは慎重に対応している。廉価のイラン品は前回 10 月 9 日の入札にすべて買い取られ、供給できない関係で、今回の応札数量には中国品が 50.1 万トンを占め、残りは中東品である。なお、中国品の FOB 価格 250~250 ドル/トンに相当する。
- \* 中国国家统计局が発表したデータによれば、今年 1~9 月の化学肥料生産量が 5704 万トン（純 N, P, K 換算、以下同）に達し、前年度同期より 8%増であった。その内訳は、窒素肥料 3714.11 万トン（6.4%増）、りん酸肥料 1496.71 万トン（13.7%増）、加里肥料 434.35 万トン（4.13%増）であった。

今年、中国化学肥料の輸出関税を低く調整したことにより、窒素、りん酸肥料の輸出量が大幅に増加した。1~9 月の化学肥料輸出量が 36.1%増の 2490 万トン（実物量、以下同）、特に尿素とりん安の輸出量が急増し、1~9 月の尿素輸出量が 17.9%増の 953 万トン、DAP 輸出量が 92.7%増の 566 万トンであった。ほかに硫安輸出量が 35.4%増の 385.8 万トン、塩安輸出量が 114.2%増の 74.3 万トン。一方、化学肥料の輸入量が 8.7%増の 743 万トン、主に塩化加里が 8.6%増の 613 万トン、N,P,K 化成肥料が 36.2%増の 111 万トンであった。

\* 中東湾岸石油と化学品協会（GPCA）がドバイに開催した第6回化学肥料大会に次のことが報告された。

1. 2004～2014年の10年間に湾岸地域の化学肥料生産能力が倍増し、2014年に4,090万トン化学肥料を生産し、2290万トン輸出した。尿素とアンモニアが重要な輸出处となり、主な輸出地域は北米、アジアと南米で、2014年の売上高が65億ドル、化学肥料関連の雇用人数が5.1万人に達した。
2. サウジアラビアとカタールの2国は湾岸地域の最大な化学肥料生産と輸出国である。サウジアラビアの化学肥料生産能力が1720万トン、カタールの化学肥料生産能力も1070万トンに達した。特にカタールの尿素生産量が湾岸地域全生産量の37%である。
3. 2015年に完成したサウジアラビアのSafco 5りん安プロジェクトと2016年に完成予定のWaad Al Shammalりん酸塩プロジェクトは高付加価値を有する特殊肥料を生産する予定で、世界市場に衝撃を与えるだろう。
4. 湾岸地域の化学肥料原料は天然ガスであるため、廉価の原料と生産性の高い新しい設備で、世界市場での価格競争に優勢が維持できる。
5. 湾岸地域の化学肥料業界は国際市場の需要を応えるために、価格競争力を保ちながら、製品の多様化を目指す。

## 大手各社の営業業績

### 肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

\* 中国国家開発銀行と北京泰瑞創新資本管理（ファンド）、中海石油化学の3社はカナダのWestern potash Corp.社との間にカナダに加里鉱山の開発と加里肥料生産に協力する覚書を交えた。Western potash社はカナダSaskatchewan州Milestone地域に加里資源の探鉱権を持ち、その探鉱面積が約443.5km<sup>2</sup>で、すでに探鉱を終了し、塩化加里生産能力280万トン/年の加里鉱山採掘と精製工場を建設する計画である。総投資額33億ドル、中国国家開発銀行がその資金の大部分を負担する内容である。

2013年6月、中海石油化学が3200万カナダドルを出資して、Western potash社の19.9%株式を取得した。また、2015年9月16日、北京泰瑞創新資本管理（ファンド）が8000万カナダドルを投じて、Western potash社の51%株式を取得した。

### その他

\* 10月4日、加里肥料最大手のカナダPotash社は声明を発表し、同業のドイツK+S社を買収する計画を撤廃する。6月25日、Potash社はK+S社を88億ドルで買収すると発表したが、K+S社が拒否し続けて、塩化加里の市況も悪化するため、Potash社がこの買収を断念した。

買収計画を撤廃するニュースが流されてから K+S の株価が 24% も暴落して時価総額約 15 億ドルが蒸発した。

\* 10 月 9 日、メキシコ経済省国際貿易局が中国とアメリカ産硫酸に対するダンピング（不当廉売）調査の結果を公表した。ダンピングを認定して、10 月 10 日から中国産硫酸に対して、0.0929～0.1703 ドル/kg、アメリカ産硫酸に対して 0.0759～0.1619 ドル/kg のダンピング防止関税を徴収する決定を下した。

\* 10 月 23 日、ロシア Uralkali 社は今年 2 回目の株式買戻しを実施した。買い戻された流通株数が約 5 億株（株式総数の約 21.98%）、他に 3000 万株以上に相当する転換社債も含まれている。買戻し価格は 3.2 ドル/株、総額約 22 億ドルであった。これにより、中小株主の持つ流通株の比率が 14% に下がって、ロンドン証券取引所から退場することが確実となる。

今回の株式買戻しには、中国国営ファンド Chengdong Investment Corporation は所持の Uralkali 社 12.5% 株式を全部売却した。この売却で、中国ファンドは約 10 億ドルの損失が出た。

また、Uralkali 社の CMO（販売総責任者）Oleg Petrov 氏が 11 月 1 日に辞任し、後継者が UralChem 社の販売部副部長を担当する Vladislav Lyan 氏である。

\* 中国化学肥料業界は 2016 年から化学肥料輸出関税を完全に撤廃するように政府に要請した。2007 年から国内農業に優先的に供給するため、化学肥料の輸出に関税を徴収したが、その後、関税率が次第に下がって、今年の輸出関税は尿素が 80 人民元（約 1,600 円）/トン、りん安が 100 人民元（約 2000 円）/トン、ほかのものが大体 5% に軽減した。しかし、中国の化学肥料生産能力が急増したことで、国内需要量を大幅に超えた一方、9 月 1 日から 13% 増値税の徴収を再開した。化学肥料業界を保護、維持するために、輸出を通じて過剰の化学肥料を消化することが一層重要になる。